

大人のむし歯 根面う蝕(歯の根っこのむし歯)

今、大人のむし歯が増えていきます。

むし歯は、歯の噛み合わせの部分におきかと思っていませんか？ 実は、歯の根元からむし歯が始まることもあるのです。根っこのむし歯を「根面う蝕」と言います。

平成28年の歯科疾患実態調査では「80才になっても20本以上の自分の歯を保とう」という「8020運動」で達成率が51.2%となりました。これは、活発な口腔保健啓発活動とフッ化物の応用による成果だと思われます。しかし、子供の噛み合わせの部分のむし歯は劇的に減少している一方で、高齢者のむし歯は増えています。

歯は、頭の部分(歯冠)と根っこの部分(歯根)があります。歯根のむし歯の主な原因は、歯根が歯ぐきから露出することです。健康な状態では、歯根は歯ぐきに覆われています。しかし、歯ぐきが下がりがむき出しになると、そこにプラーク(歯垢)がたまりむし歯になります。

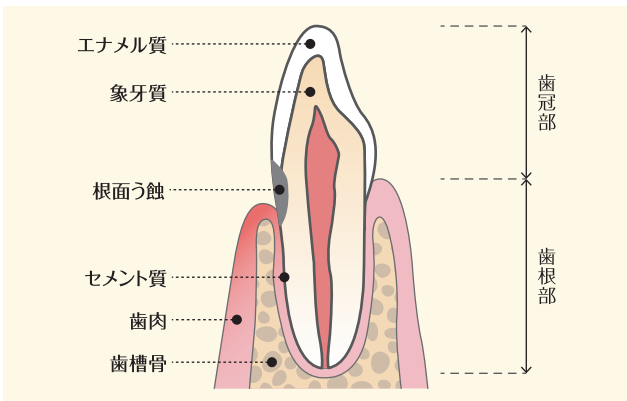


図1

露出した歯根がむし歯になりやすい理由は、歯冠と歯根の構成されている成分や組織、硬さに違いがあるためです。歯冠の表面は、エナメル質でほとんどがミネラル(無機質)で占められているのに対して、歯根の表面はセメント質です(図1)。これは大変薄い層で、その内側は象牙質で、その3割がコラーゲンと水で構成され、この水分はむし歯菌にとって格好の栄養源になります。

また、硬さにおいてもエナメル質とセメント質では7倍もの差があります。人は砂糖などを摂ると口の中は一時的に酸性に傾き、数時間経過すると元の状態(中性)に戻ります。この酸性に傾いている時間が長ければ、歯の表面が溶けやすくなり、むし歯が始まります。歯根の象牙質は、歯冠のエナメル質に比べるとほんの少し酸性に傾くだけで表面がむし歯になりやすいといえます(図2)。



図2

歯ぐきが下がりが歯根が露出する主な原因は歯周病や誤った歯みがきです。歯周病により歯を支えている周りの組織の破壊が起こり、歯肉が下がってしまいます。また、歯と歯の間隙が大きくなり普通の歯ブラシだけでは清掃が難しく、このブラッシング困難な箇所ではプラークの除去が不

良になり、さらに歯周病が進行します。また、ゴシゴシと過度な圧力がかかった不適切な歯みがきは、機械的に歯ぐきを下げることとなり、歯の摩耗や、くさび状欠損(歯冠と歯根の境目がえぐれて減ってしまう状態)を発生させます。

また、加齢とともに口の機能や環境の変化も起こります。なかでもむし歯との関連性が深いものでは、唾液流出量の減少や口腔乾燥症の発現があげられます。「口が乾きやすくなった」「いつも水を持ち歩いている」方は要注意です。唾液は口の中の潤滑油であり、殺菌作用も兼ね備えています。唾液流出量が減少するだけでも、むし歯菌が露出した歯根の周りに停滞し、むし歯がでやすくなります。唾液流出量の減少は加齢による機能低下だけではなく、さまざまな疾患を持ち、多くの薬を服薬することによる副作用もあります。さらに、がん治療における化学・放射線療法では、一時的に唾液が出にくくなることもあり、治療期間中にむし歯が急速に進行するケースがみられます。

要介護者においては、食べることや話すことがうまくできなかったり、口の中の環境の変化が起こり、それに加えセルフケア能力が低下することで、根面う蝕予備軍となり、その管理には注意が必要です。例えば、脳卒中により口の中も片麻痺が起こり、麻痺した側には食物残渣(食べ物の残りかす)が多く、歯の質の弱い歯根にむし歯が多発する結果となります(図3)。



図3

根面う蝕は進行が速く、歯根の周囲を取り囲むように、歯ぐきの下の方に進行していきます。このむし歯が原因で、歯冠が折れてしま

うこともあります。

高齢者、特に在宅や施設などで、ご自身で十分な口腔清掃ができなくなった方にとって、根面う蝕は歯を急激に失わせ、食べる機能や生活の質を一気に低下させる原因になります。

根面う蝕の予防法は、まず口腔清掃です。通常よりやや柔らかめの歯ブラシによるていねいな清掃です。歯間ブラシの使用も大切です。また、フッ化物入りや低研磨の歯磨材の使用も有用です(図4)。

いつまでも自分の歯で噛み、健康な生活を送るためにも「根面う蝕」を予防することが大切です。予防には毎日の家庭でのセルフケアと口腔機能の維持等を含む歯科医院等でのプロフェッショナルケアが大切です。

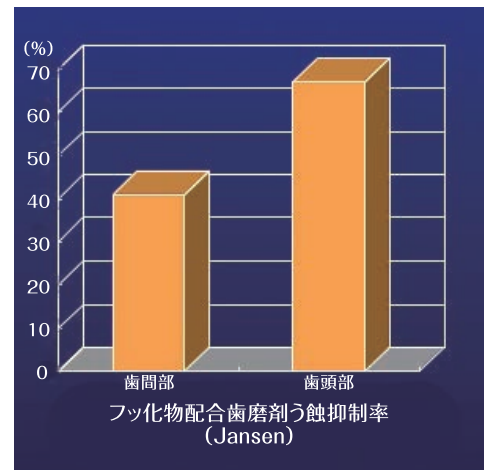


図4

【参考文献】

- 1)厚生労働省:平成28年歯科疾患実態調査
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/62-28-01.pdf>
- 2)日本歯科保存学会編:う蝕治療ガイドライン第2版 永末書店,2015.

(公益社団法人日本歯科衛生士会 病院・診療所委員会)